

～あなたの担当事業に人権学習を～

第Ⅰ章で紹介したように、自然体験活動、環境学習、交流活動などの様々な活動が人権学習につながります。これらの活動を、実施している担当事業のプログラムに積極的に取り入れましょう。

第Ⅱ章ではその参考になるための、1こま全体が人権問題を取り上げた人権学習プログラム例と、1こまの一部が人権学習のアクティビティ、そしてそのまま使えるワークシートを紹介します。

第Ⅱ章の構成

第Ⅱ章 ー ①

あなたの青少年教育事業に人権学習を 6

全体が人権学習 6

一部が人権学習のアクティビティ 10

一部が人権学習のワークシート 12

第Ⅱ章 ー ②

あなたの家庭教育支援事業に人権学習を 18

全体が人権学習 18

一部が人権学習のアクティビティ 23

一部が人権学習のワークシート 24

第Ⅱ章 ー ③

あなたの高齢者対象事業に人権学習を 32

全体が人権学習 32

一部が人権学習のアクティビティ 36

一部が人権学習のワークシート 38

※ ティーブレイク 17、31、35

あなたの青少年教育事業に人権学習を

公民館などで行われている、よりよい人間関係の在り方を学び、自分たちを取り巻く自然や社会についての理解を深めることをねらいとした小学生対象の青少年教育事業の計画例です。

- 1こま全体が人権学習
8、9回目 「高齢者」 (P6～9)
- 1こまの一部が人権学習
2回目「障害者、高齢者」 (P12,13)
3回目「インターネットによる人権侵害」(P14～16)
4回目「生命を尊重する心」 (P10)
6回目「他人を思いやる心」 (P11)
「人権を尊重する意識」

回数	内 容	会 場
1	オリエンテーション いろいろな自己紹介で仲間づくり	公民館
2	ウォークラリー大会をしよう フェック [®] イトはバリアフリーの施設	公民館 市内
3	インターネットを体験しよう インターネットの便利さ、怖さを知る	公民館
4	野外調理に挑戦しよう カレーづくりと飯ごう炊はん	公民館 広場
5	石けんを作ってみよう 廃油を利用し、せっけんを作る	公民館
6	里山探検に挑戦 里山で自然観察を楽しむ	那須 高原
7	秋の星空を観測しよう アンドロメダ銀河を見る	公民館 駐車場
8	しめ縄作りに挑戦 高齢者の知識や人柄にふれる	体育館
9	高齢者にやさしいまちウォーキング 高齢者と一緒に歩く	体育館 市内

1こま全体が人権学習

しめ縄作りに挑戦 (8回目)
高齢者にやさしいまちウォーキング (9回目)

ねらい 高齢者の人権 (170分、130分)

高齢者と活動することで、異世代交流からの学びや喜びを味わうとともに、高齢者に対するいたわりの気持ちや尊敬の念を育てる。



8回目 アイスブレーキング 20分 — アクティビティ① 高齢者のイメージこのゆびとまれ

中心となる活動 150分 — アクティビティ② 一緒にしめ縄作りをしよう

9回目 100分 — アクティビティ③ 高齢者にやさしいまちウォーキング

ふりかえり 30分 — アクティビティ④ 感謝の気持ちを伝えよう

アクティビティ① 高齢者のイメージこのゆびとまれ（20分）

＜展開の仕方＞

ねらい

場の雰囲気や和らげるとともに、人それぞれ高齢者に対するいろいろなイメージをもっていることに気づきます。

アドバイス

- 1 高齢者に対するイメージを1つ決めます。
例：優しい、厳しい、料理がうまい等
- 2 「おじいちゃん、おばあちゃんは〇〇〇！」と言
い会場内を移動し同じイメージの人を探し2人組を
つくります。そこに2～4人の高齢者が加わり4～
6人グループをつくります。
- 3 子どもたちはそのイメージをもった理由を、高齢
者は子どもたちの話を聞いた感想を話します。
- 4 気づいたことや感じたことを発表します。
- 5 活動をふりかえります。

お互いを尊重する大切さを考
えさせるようにしましょう。

2人組にこだわらず、全員が
組めるようにしましょう。

相づちを打ち、うなずきなが
ら聞くことで肯定的な態度を
育てましょう。

自分のもっていたイメージと
実際高齢者と接しての違いな
どを発表させましょう。

アクティビティ② 一緒にしめ縄作りをしよう（150分）

＜展開の仕方＞

ねらい

高齢者と一緒に活動することとおして、
高齢者のもっている豊かな人生経験にもとづ
く知識や技術に気づきます。

アドバイス

- 1 しめ縄作りに必要な材料や道具を準備します。
- 2 最初に作り方の概略を聞き、グループごとに協力
し合いながら、しめ縄作りをします。
- 3 教わった高齢者の方について、ワークシートに記
入します。
- 4 完成したしめ縄を見せながら、ワークシートを基
に、高齢者を紹介します。
- 5 グループで感じたことを発表します。
- 6 活動をふりかえります。

活動中は高齢者を名前と呼ぶ
など、人権が尊重された雰囲
気づくりを努めましょう。

高齢者には、長年にわたり培
ってきた知識や経験を伝える
充実感を、子どもたちには作
り上げた達成感をもたせまし
ょう。

準備物：ブルーシート、汚れてもよい服装（下はズボン）、わら（も
ち米のわらがよい。なければうるち米でも可）はさみ

※ しめ縄づくりは活動の一例です。高齢者のもっている知識や経験
を伝える活動であればほかの活動との変更も可能です。地域や参
加者の実情に合わせましょう（例：ほたるかご、しもつかれ、そ
ば、うどん等）

アクティビティ③ 高齢者にやさしいまちウォーキング（100分）

＜展開の仕方＞

ねらい

高齢者にやさしいデザインのものを見つけることで、だれもが生活しやすいまちを意識することができます。

- 1 「ウォーキング」の活動に向け高齢者とどのようにかかわるかグループで話し合います。話し合い後、高齢者と合流します。（高齢者は別室で待機）
- 2 前回の活動の4～6人グループでウォーキングの説明を聞きます。
 - ①高齢者に配慮されているところ、もっと配慮してほしいところを高齢者の意見を基に相談しながらコース図に書き込みます。
 - ②交通ルールを守り、高齢者のスピードに合わせて歩きます。
- 3 グループごとにウォーキングに出発します。
- 4 戻ってきたらコース図を基に、グループごとに発表します。
- 5 「高齢者にやさしいまち」とはどんなまちかをグループで話し合います。

準備物：コース図

※ ウォーキングを高齢者疑似体験にしてもよいでしょう。

アドバイス

前回の活動をふりかえり、高齢者の気持ちを尊重し活動するように助言しましょう。

高齢者への配慮が、障害者や子どもへの配慮にもつながることを押さえましょう。

安全面に十分配慮して実施しましょう。

自分も将来、高齢者になることを意識して話し合うようにさせましょう。

疑似体験用具貸出しについては県の介護研修センターや各市町の社会福祉協議会に問い合わせてみましょう。

アクティビティ④ ふりかえり：感謝の気持ちを伝えよう（30分）

＜展開の仕方＞

ねらい

高齢者に対する感謝の気持ちや尊敬の念などを手紙にすることで、高齢者とのかかわり方を考えることができます。

- 1 しめ縄作りやウォーキングの活動の中で高齢者から学んだこと、うれしかったことをふりかえりながら、交流活動でお世話になった高齢者に、お礼の手紙を書きます。
- 2 これから高齢者とどのようなかかわりをもっていきたいかグループの中で話し合います。（ワークシート）
- 3 自分の言葉で感謝の気持ちを伝えます。

準備物：便箋、封筒

アドバイス

なぜうれしかったのかについて、心の問題として投げかけましょう。

この活動が一番大切です。表面的な答えにならないよう十分に配慮しましょう。

＜応用・発展＞

- 子どもたちが計画し、感謝の会を実施できるように支援するとよいでしょう。

アクティビティ②



一緒にしめ縄作りをしよう

こんなところがすごかった。

紹介する方の名前

こんな言葉をかけられてうれしかった。

アクティビティ④

感謝の気持ちを伝えよう

これからの高齢者とのかかわりについて考えましょう。

高齢者は、おじいちゃん、おばあちゃんと呼ばれるのと〇〇さんと呼ばれるのはどちらがうれしいのでしょうか。それはなぜですか。

高齢者がいたら何でも手助けをしてあげた方がいいのでしょうか。それはなぜですか。

すてきな高齢者と楽しくかかわるために、私たちができることは何ですか。

自分の言葉で感謝の気持ちを伝えましょう。

1こまの一部が人権学習のアクティビティ

野外調理に挑戦しよう（180分）プログラム4回目 アクティビティ⑤ エコクッキング（40分）

＜展開の仕方＞

ねらい

環境を考えながら調理をすることで、自然や環境を守ろうとする意欲を高めます。

アドバイス

意識すれば水や燃料を節約して調理できることを体験させましょう。

グループ内で助け合って効率的に活動を進めることで、互いに尊重し、認め合うことのよさを意識させましょう。

資源ゴミの有効活用に視点を向けさせましょう。

例：生ゴミの有機肥料化
ペットボトルの再利用
廃油→燃料、石けんなど

- 1 今回の野外調理は「エコクッキング」がテーマであることを知らせ、そのルールを説明します。
①調理から片付けまでを、2リットルのペットボトル何本の水で行えるかを競います。
②使用するまきの量も、少ないグループが有利になるようにします。
- 2 グループごとに調理の計画を話し合います。
- 3 グループごとに調理を始めます。
- 4 会食し、その後ゴミの分別ルールに従い、片付けを行います。
- 5 グループで気づいたことを話し合い、グループごとの結果と工夫した点を全体に発表します。

準備物：野外調理用具、食材、燃料、ペットボトル（各班2本）

＜気づいてほしい人権のポイント＞

- 自然や環境を守ろうとすることで、生命を尊重する心をはぐくみます。これが人権を尊重することにつながります。
- 子どもたちに調理の仕方だけでなく、買物での食材の選び方（露地もの、地元産の食材を選ぶことで消費燃料の削減につながります）買物の仕方（ゴミの出ない食材や簡易包装で石油資源の削減につながります）などに目を向けさせることが、身近な生活を見直すきっかけとなります。

燃料や水を少なくする

→ 環境を守る
生命を尊重する心

→ 豊かな人間性

→ 人権学習

＜応用・発展＞

- ゴミの分別で、市町の環境課の方などをゲストティーチャーにすると、行政の取組を具体的に知ることができ、より身近にゴミ問題を考えられます。
- エコクッキングを詳しく調べるには・・・

社団法人広島県栄養士会

検索 

<http://www.city.hiroshima.jp/kankyuu/ecocook/index.html>

里山探検（120分）プログラム6回目

アクティビティ⑥ 自然体験ゲーム（40分）

＜展開の仕方＞

ねらい

身近な自然に様々な方法でふれることで、今まで気づかなかったことに気づき、物事を多角的にとらえる感覚を高めます。

アドバイス

- 1 「里山探検」の説明を聞き、出発します。
- 2 里山探検の途中で、目を閉じて聞こえてくる音の方向、大きさ、音のイメージを形にして自分が中心に示されたサウンドマップ用紙（以下マップ）に書き入れます。
- 3 完成したマップを交換し、互いの発見や感想を話し合います。
- 4 コマ地図を使ってペアで決められたコースを歩き、発見したものを、言葉を使わずに伝えます。
- 5 互いの発見や感想を話し合います。
- 6 里山探検を続けます。
- 7 活動をふりかえります。

より多くの音が発見できる場所を設定しましょう。

聞こえてきた音の方向や大きさ、音のイメージをマップに自由に表現させましょう。

視覚的な発見ができる場所を設定しましょう。

ジェスチャーで伝え合い、言葉に頼らない表現方法を考えさせましょう。

準備物：サウンドマップ用紙 コマ地図

＜気づいてほしい人権のポイント＞

- 五感を使って自然にふれることで、今まで「気づかなかったこと」が多いことを気づかせます。それは人との関係にも共通することであることに視点を向けます。
- マップに書き込む活動では、ふだん聞こえなかった音に耳を傾ける姿勢が子どもたちの豊かな感性を広げます。
- 言葉を使わずに伝え合う活動では、音声言語に頼らないコミュニケーションを体験することで、伝わることの喜びが体験できます。

五感を使って自然にふれる

→ 気づかなかったことの発見
様々な立場の理解

→ 人権学習

＜応用・発展＞

○ フィールドビンゴ

4×4、5×5などの升目に入っているキーワードやヒントとなるものを、フィールドを歩きながらすべて探していくゲームです。キーワードやヒントは触覚・きゅう覚など五感を使って探すものを設定します。

1こまの一部が人権学習のワークシート

ウォークラリー大会（180分）プログラム2回目

アクティビティ⑦ わかるかな？バリアフリーマーク（40分）

＜展開の仕方＞

ねらい

福祉に関連するマークを探すことで、日ごろ意識しなかった障害者や高齢者などへの配慮に気づきます。

- 1 出発前に「わかるかなバリアフリーマーク」の問題に、グループごとに挑戦します。
- 2 答え合わせをしながら、マークにどのような意味があるかを理解します。
- 3 自分たちの経験を基に、マークがどんな所にあるかを予想します。
- 4 マークが自分たちの予想した所にあるか検証しながらまち探検ウォークラリーをします。
- 5 ゴール後、グループでマークがどんな所に、何の目的で設置されていたか話し合います。
- 6 ウォークラリーの結果を発表します。

準備物：筆記用具、まち探検ウォークラリーコマ地図

アドバイス

高齢者や障害者などへの配慮があることに視点をあて、話し合わせましょう。

バリアフリーなど高齢者や障害者に優しい施設を観察することに視点をあてましょう。

＜気づいてほしい人権のポイント＞

- 人に優しい施設やまちづくりは、人権を尊重することにつながります。
- 意識してマークを探すことで、ふだん意識して見ていなかったものに目が向きます。
- マークが設置されている場所の観察や話し合いをとおして、障害者や高齢者の視線や立場を理解するとともに、コミュニケーションが図れます。

マークの意味を考える・知る

→ 障害者や高齢者への配慮を理解する

→ 人権学習

＜応用・発展＞

- ウォークラリーのチェックポイントに障害者や高齢者の疑似体験を入れることで、そうした人たちの立場で考えることができます。
- 障害者や高齢者にとって生活しにくい場所を見つけ、だれもが生活しやすいまちづくりを考えると内容がさらに深まるでしょう。

わかるかな？バリアフリーマーク

ワークシート

問題 下のマークはどんな意味があるかわかりますか？またどんな所にあるか考えてみましょう。

No.	マーク	意 味	設置されている場所	
			予 想	結 果
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				

【マークの名称と意味の解説】

- ① 障害者のための国際シンボルマーク：障害のある人々が利用できる建築物や施設であることを示す世界共通のマーク。
- ② 視覚障害者のための国際シンボルマーク：視覚障害者の安全やバリアフリーに考慮された建物、機器などにつけられているマーク。
- ③ 耳マーク：聞こえが不自由なことを表す、国内で使用されているマーク。
- ④ ほじょ犬マーク：身体障害者補助犬同伴の啓発のためのマーク。
- ⑤ オストメイトマーク：人工肛門・人工膀胱を造設している人（オストメイト）のためのトイレ設備があることを表しているマーク。
- ⑥ マタニティマーク：公共機関等で周囲が妊産婦への配慮を示しやすくする推進マーク。
- ⑦ 優先席マーク：公共交通機関内での障害者、高齢者、産婦等の優先席のマーク。JR東日本ほか一部の鉄道事業者等において採用されているマーク。
- ⑧ 身体障害者標識：肢体不自由である人が運転している車であることを表すマーク。

インターネットを体験しよう（120分）プログラム3回目

アクティビティ③ 大丈夫？あなたのインターネットモラル（40分）

◦ < 展開の仕方 > ◦

ねらい

インターネットの技術を学ぶ中で、モラルチェックを実施し、インターネットによる人権侵害に関する問題意識を高めます。

アドバイス

- 1 Webページでの情報収集、ネットショッピング、メールなどインターネットでできることを学びます。
- 2 検索エンジン・URL入力・キーワードなどインターネットへの接続方法を学びます。
- 3 テーマを決めインターネットで必要な情報を集めるなどインターネットを体験します。
- 4 ネットワーク内で疑似メール体験をします。
- 5 ネットにかかわる人権問題を学びます。
 - ① 「あなたは大丈夫？ネットモラル」を使って自分のインターネットモラルレベルを知ります。
(ワークシート)
 - ② 答えを合わせながら、指導者からインターネットや携帯電話を利用するときのモラル、人権の視点についての解説を聞きます。
- 6 体験をふりかえります。

世界中につながっていることで、情報量の多さや即時性など便利なツールであることを伝えましょう。

便利な反面、匿名性や情報の漏えいによる危険性に目を向けさせましょう。

根拠を考えながら答えるように伝えましょう。

インターネットの危険性、人権とのかかわりを意識させましょう。

準備物：インターネットに接続できるコンピュータ、筆記用具

◦ < 気づいてほしい人権のポイント > ◦

- 著作権、肖像権、プライバシー、個人情報の取扱いなど個人のもつ権利について学ぶ機会となります。



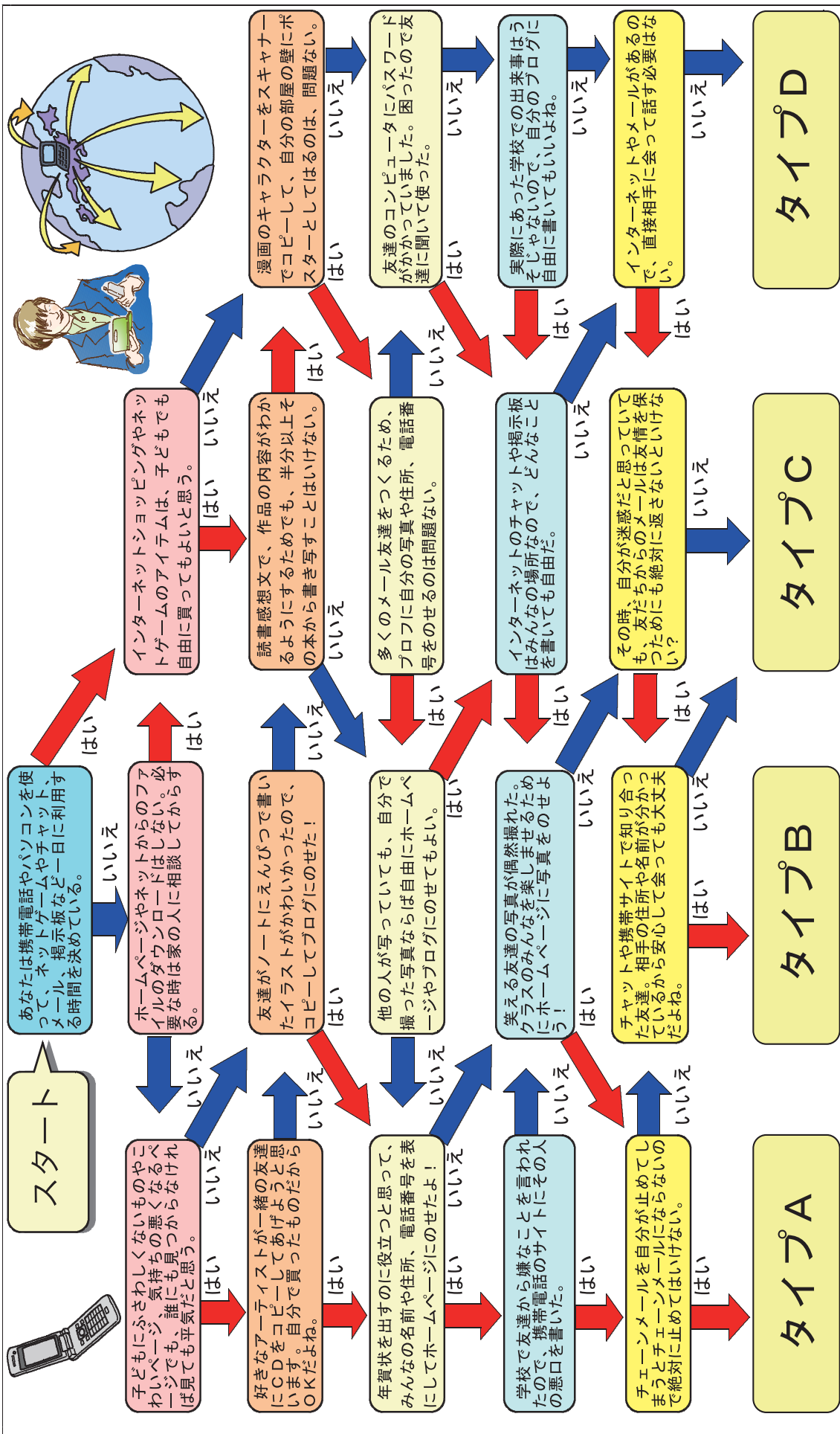
◦ < 応用・発展 > ◦

- チャットや掲示板を使った「ネットいじめ」を考えることは、社会にある人権問題を考えることにもつながります。
- インターネットでも様々な情報モラルを学べるWebページがあります。目的にあったものを事前に探し、検証することをおすすめします。
「ネット社会の歩き方」 <http://www.cec.or.jp/net-walk/>
「コピーライトワールド」 <http://www.kidscric.com/>



大丈夫？あなたのインターネットモラル

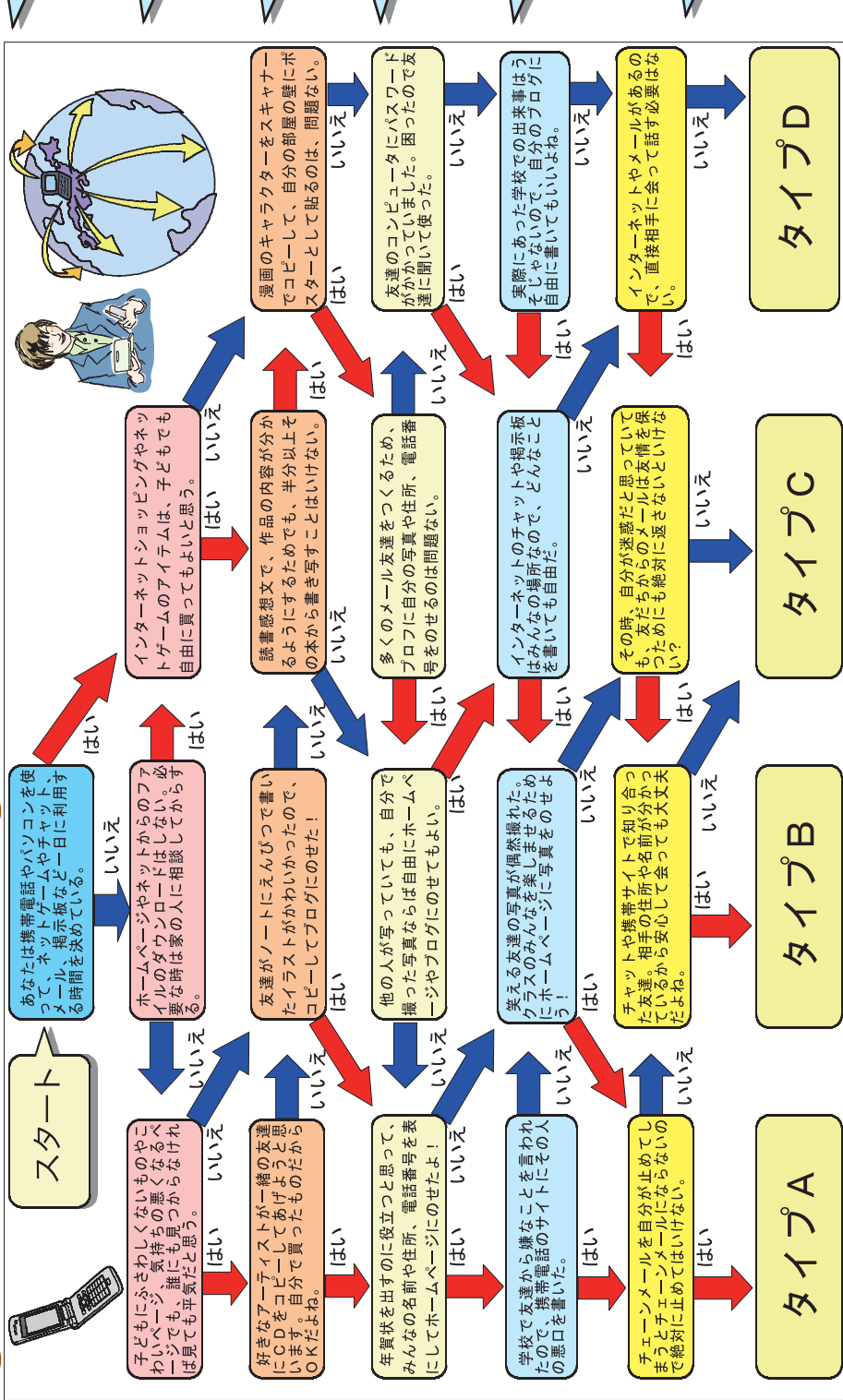
ワークシート



大丈夫？ あなたのインターネットモラル

解説編

ワークシート





ティーブレイク

参加体験型学習でよく使われる言葉を、わかりやすく説明します。



【参加体験型学習】

参加者を主体とし、体験的な活動などを取り入れた学習手法です。参加者が積極的に他者の意見や発想から、気づき、学び合い、最後にふりかえりをするという学習過程から得られる自らの学びを大切にします。

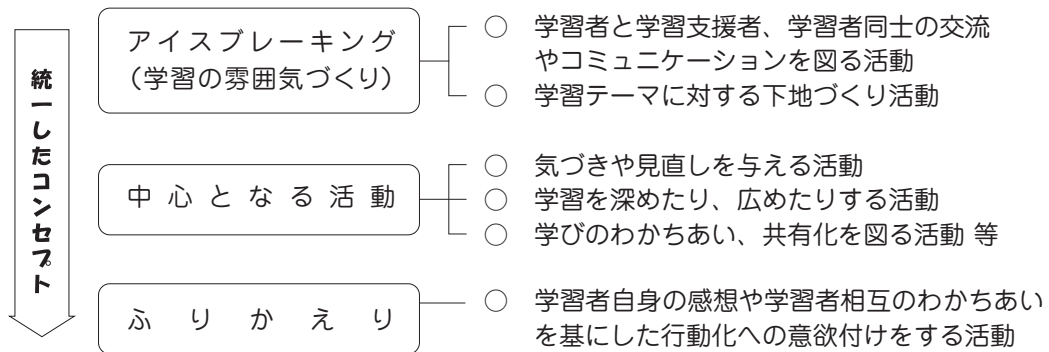


※ 平成9年度から県教育委員会事務局生涯学習課で作成している「人権に関する社会教育指導資料」では、参加体験型学習をワークショップと呼んでいます。

ワークショップのプログラムは、アイスブレイキングと中心となる活動、ふりかえりの3つで構成されます。

ワークショップの3つの構成要素とそれを貫くコンセプト

(○は、一つ一つのアクティビティを示しています。)



【アクティビティ】

学習プログラムを構成するひとまとまりの学習活動のことです。統一されたコンセプト（概念・考え方）の基に、いくつかのアクティビティが組み合わさって参加体験型の学習プログラムが作られます。

【ファシリテーター】

ワークショップを進行する人をファシリテーターと呼んでいます。全体の進行を務めるとともに、参加者の主体性を尊重しながら学習活動や互いのコミュニケーションが円滑に進むように、様々な方法で働きかけたり促したりします。

